

広島仮説サークル版授業書



# 〈見ること・思うこと〉



1989. 6月版

入江 洋一

広島仮説サークル

いど出版

## 〈見ること・思うこと〉

1989年6月版

入江 洋一

学活などの時間を使って、気軽に楽しめる1時間ものの授業書です。

錯覚を楽しむだけでなく、〈「見る」ということは、どういうことか〉について深く考える生徒がでてきます。さらに、人間のすばらしさに感動したという感想を書く生徒まで現われることさえあります。

### 〔授業運営上の留意点〕

(1) 〔質問1〕は「予想を出し合ってから、たしかめてみましょう。」と書いてはあるものの、簡単にたしかめられるので、プリントを受け取るとすぐにたしかめる生徒が出ます。プリントを配る前に、次のように約束しておくといいでしょう。「これからの質問は、みんなの思いをきくのだから、プリントを受け取っても実験をしないでください。」

それでも、実験をする生徒がでるかもしれませんが、それは、もう一度お願いすることにして、決して弾圧はしないでください。

〔質問3・4・5〕も同じように扱うといいでしょう。

(2) 〔質問5〕までは早いテンポで進めたほうがいいようです。

(3) 〔質問6・7・8〕はゆったりと進めたほうがいいようです。とくに、〔質問7〕の図が立方体に見えるということを聞いても、〈立方体に見えない〉という人が出ます。焦るとなかなか見えないものです。11ページでは、すこし時間をかけて、全員が見えるまで待ったほうがいいでしょう。(しかし、〔質問7〕の図が、本当にだれでも立方体に見えるのかどうかは、まだ確証がありません。もし、どうしても見えない人が1割もいるようなら、このプランは成り立ちません。)

(4) 13ページの〔たしかめてみよう〕は、おそらくだれも「できない」

はずです。同一の図形から2つの立方体のイメージが浮かび、それがパッパッと入れ替わるところを見てもらえればいいのです。ただ、立方体ではない別の図形をイメージして「AもBも手前に見える」と答える人ができることがあります。

(5) [質問9] は次のように進めると楽しいという報告があります。

予想をいってもらう前に、〈もし何が見えたとしても、どこをどのように見ればそのように見えるかは、互いに教えあわない〉という約束をします。そして、全員に一斉に何に見えるか言ってもらいます。すると、みんなの見えるものが一致しないことがわかります。そこで、改めて何に見えるか一人ずつ言ってもらって、選択肢をつくり人数を数えます。

人数を数え終わったら、どこをどう見れば何に見えるのか話し合います。この話し合いがとっても楽しいというのです。

(6) 中3で1クラス(滝口純二さん)、中1で4クラス(山住章さん)、3クラス(有森康平さん)の授業の結果はいずれも好評でした。どの授業も1時間で終わって、90%以上の生徒が「楽しい」と評価しています。

(7) この授業書は印刷の都合上で両面印刷にしています。授業に使われるときは、片面印刷にしてください。ただし、6ページと7ページおよび8ページと9ページは両面印刷でもかまいません。

[\*引用文献・参考文献]

\*『錯視図形－見え方の心理学』今井省吾著、サイエンス社(1984)

\*『不思議な心理学－ホントの嘘と嘘のホント』斎木深著、ワニ文庫(1984)

\*『視覚の文法－ゲシュタルト知覚論』G. カニッツァ著、野口薫監訳、サイエンス社(1985)

・『科学的とはどういうことか』板倉聖宣著、仮説社(1977)

・月刊『たのしい授業』仮説社、1987年12月号掲載、「見える世界見えない世界」城雄二著(1987)

・別冊サイエンス『特集視覚の心理学1 イメージの世界』日経サイエンス社、(1975)